かまの けいぞう
釜野 敬三

「Akira farm」共同経営

02
-北部-

応募のきっかけは？

徳島県のサツマイモ農家から取り寄せた密芋を食べた時の感動が忘れられず、自分も「食べ物で人を感動させたい」という思いが強くなり、農家を目指すようになりました。

農業での移住先を見つけるために、何となく知っていた協力隊をインターネットで検索しました。県内外に限らず、1年間探し続け、阿武町の「農業支援員」が目に留まり、すぐに役場へ話を聞きに行きました。以前からトライアスロンの練習のため、阿武町には毎週休みの日に訪れていましたので、すぐに行動に移すことができました。阿武町での練習が下見にもなっていました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

家庭菜園では作物を上手に作ることができましたが、本格的に商品とする作物を作るとなると教科書通りにはいきませんでした。農業は教科書通りにすれば、問題なく収穫できると思っていたので、農業のイメージが変わりました。自分のスタイルに持っていくまでに時間がかかりました。

隊員時代の思い出を教えてください

ネギを栽培して販売するまでに、とても多くの作業があります。ネギ栽培を行いながら同時進行で、販路の開拓、圃場の確保、運転資金の資金繰り、作業機械の準備、機械及び肥料置き場の確保、調整作業の作業場の確保、冷蔵設備の準備、販売先までの輸送手段の確保、出荷先への出荷量の調整など、次から次へとやることがあり、また、課題も出てきます。任期中は時間に追われ、気が付いたら任期が終了していたという感じです。

実は、任期の3年間で農業を軌道に乗せ、雇用するところまでを考えていましたが、任期中は計画通りにいかず、自分の計画よりも1年半遅れました。これも学びなのかなと思っています。

隊員時代：ネギ栽培

▲ネギ畑

現在、そしてこれからについて

ねぎ農家として安定した経営をすることを第一に考えています。いつの日か、趣味のラテアートを生かし、農家を志すようになった原点とも言える、「食べ物で人を感動させ、笑顔にする」ことを目標にしたカフェをやってみたいと思っています。

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

卒業後をイメージして、日々の活動を遂行してください。その中で共感や協力してくださる方を大切にしてください。協力隊としてのこの機会を大いに生かし、自分がやりたかったことをぜひ実現してください。

かまの けいぞう
釜野 敬三さん

協力隊として

| 着 任 地 | 阿武町
| 活動期間 | 2017年4月～2020年3月
| 活動内容 | 農業支援員

現在の仕事

「Akira farm」共同経営
| ホームページ |
https://negi.akirafarm.com/

釜野さんのあゆみ

- 2016. トライアスロンの練習のため阿武町に通う
- カフェでの見習い開始
- 2017.04 協力隊着任
- 2017.06 ネギ栽培開始
- 2020.03 協力隊卒業
- 2020.04 「Akira farm」設立
- 2021.12 カフェの物件に出会う
- 2022.01 カフェの物件購入